



香港デング熱患者の調査を実施：CHP

香港衛生署 www.chp.gov.hk 2015-12-03

香港衛生署衛生防護センター（CHP）社会医学顧問医（伝染病）の張竹君は今夜（12月03日）、香港で確診されたデング熱患者について、再び市民に対して香港にいても外地に出かけても、衛生環境に注意し、防蚊と個人防御措置をとるようと呼びかけた。

当該患者は54歳男性で、これまでの健康状態は良好であったが、11月29日に発熱と発疹、頭痛、筋肉痛と関節痛などの症状が現れ、11月30日に北角（宮本注：ノースポイント）にある民間クリニックにかかり、12月1日に律敦治医院（Ruttonjee Hospital）の救急治療室に行くも入院の必要はなしとされた。

彼の血液サンプルをCHP 広州衛生化学検査サービス所で検査した後、デング熱ウィルスのNS1抗原及びデング熱ウィルスの血清1型（DEN-1）遺伝子に陽性反応が出た。患者の状況はずっと安定しているが、今夜現在、律敦治医院で入院治療を受けている。

初歩調査により、患者は北角永興街にある私営ビルに居住していたが、潜伏期間内に香港空は出ていないことが判明。彼は、11月2日に発表したデング熱患者（この人もデング熱ウィルス血清タイプはDEN-1で陽性となった）と同じシャーティン（沙田）の大水坑村付近のある現場で作業をしており、サイトで蚊に刺されていた。

彼の家族接触者にはこれまでのところ症状が出ていないが、医学観察を受けている。

張竹君医師は：「CHPは直ちに疫学調査をすると同時に食物環境衛生署（食環署）に通知、疫学調査及び防蚊措置を採るよう通知している。CHPは、患者の調査を継続しており、患者が訪れた場所付近での健康教育活動を展開しているところだ」と語った。

CHPの職員が現在患者の住んでいる地区及び作業現場を視察し、アンケート調査を行ってまだ見つからない患者の有無確認と血液検査をしている。

北角永興街と沙田大水坑村を訪れてデング熱の症状が出ている人は、CHPのデング熱ホットライン（2125-1133）に電話をし、化学調査或いは病院に妥当な措置を求めねばならない。ホットラインは、今夜は9時まで、明日（12月4日）は午前9時から午後6時までオープンしている。

CHPと食環署は、今夜7時30分、銅鑼灣（コーズウェイベイ）福蔭道7号にある銅鑼灣コミュニティセンター（**社**区）において合同で健康セミナーを開催し、住民と市民に対して健康アドバイスを提供する。

香港では、今年これまでに110人のデング熱患者が確診されているが、（この患者も含めて）香港発が2名、外地からの輸入症例106、1名が分類不能、及び1名は調査中患者となっている。注目すべきは、過去10年の同期比で見ると、2005年～2014年は27～109例とバラバラだが、今年はこれまでに過去最高となっていることだ。この他、2014年度は香港発が3名、外地からの輸入症例109人となっていた。2013年は103人で、全員が外地からの輸入症例であった。

張竹君医師は：「我々は、医師や私営クリニックに対し、彼らがこの患者の件についてよく留意するようにと発信している。我々は医院管理局管轄下の公立病院や市立病院とその医師たちと連動して、デング熱の疑い症例の観測を強化していく。早めの照会と速やかな制御が香港でのデング熱の流行制御に重要だ。」と語る。

デング熱ウィルスには4種類の血清型あり、或る血清型に最初に感染した場合、病状は一般に軽微だが、もしその後その他の血清型に感染すると、何年も経った後でも比較的容易に重症化し、デング出血熱になることがある。重症デング熱の病態はかなり重篤なものになり、死に至ることもある。適切な治療を

しない場合、重症デング熱の死亡率は **20%** を超える」と説明した。

また、「これまでにデング熱ワクチンはまだ登録されておらず、それ故、香港にいても渡航中でも、絶えず環境衛生に注意し、防蚊と個人の保護措置をすることがデング熱の最も有効な予防方法となるのだ。

CHP は渡航者に対し、出発前に現地のデング熱リスクを調べ、以下の予防措置を取るようと呼びかけている：

- * ゆったりした明るい色彩の長袖上着と長ズボンを着用し、皮膚が露出する部分や衣服には **DEET** を含む昆虫忌避剤を塗布すること；
- * 戸外にあっては、香りの強い化粧品やスキンケア製品の使用を避け、指示に基づき昆虫忌避剤を何度も使用すること；
- * 少なくとも出発の **6 週間前**には、医師の意見を聞き、予防措置を十分に採り、蚊に刺されぬようにすること；及び
- * 渡航期間中は、もし流行地区の郊外に旅行する場合は、携帯式の蚊帳を持ち、蚊帳にはペルメトリン殺虫剤を使用すること。ペルメトリンは皮膚に直接塗布しないこと。

デング熱の潜伏期は **3~14 日** といろいろだが、通常は **4~7 日** とされる。もし渡航先から香港に戻った後に体調が悪ければ、速やかに病院にゆき、渡航歴について医師に細かく説明をすることが必要だ。

市民は、水が溜まらないようにし、良好な環境衛生を保たねばならない：

- * 一週間に一度は花瓶の溜水を取り替えること；
- * 一週間に一度植木鉢の底の溜水を清掃すること；
- * 水の容器の蓋をしっかりと占めること；
- * エアコン下の底板に水が溜まらないようにすること；
- * 使用済みの缶や瓶をカバーのあるゴミ箱に入れること；及び
- * 食物及びごみの処理をきっちりすること。

もし、病気の蚊（宮本注：**「蚊患」を無理やりに訳すとうなりますが、蚊が病か否か判らないのでは？**）を見つけたら **1823** ホットラインで政府に報告或いは、下記の **HP** を見て詳細を理解せねばならない：

- * [CHP のデング熱のページ](#)
- * [衛生署旅游健康サービスデング熱のページ](#)
- * [衛生署最新渡航情報](#)
- * [衛生防護センター「昆虫忌避剤使用の注意事項」](#)
- * [衛生防護センターFacebook 専用ページ](#)
- * [衛生防護センターYoutube チャンネル](#)
- * [食物環境衛生署の蚊の繁殖防止ガイド](#)

完

2015 年 12 月 03 日（木）

http://sc.chp.gov.hk/TuniS/www.chp.gov.hk/tc/view_content/42489.html

..... 以下は中国語原文

卫生防护中心调查一宗本地登革热确诊个案

香港衛生署 www.chp.gov.hk 2015-12-03

卫生署卫生防护中心社会医学顾问医生（传染病）张竹君医生今晚（十二月三日）公布，正调查一宗本地登革热确诊个案，并再次呼吁市民，不论在本地或外游，应时刻注意环境卫生，以及采取防蚊和个人保护措施。

该名 54 岁男病人过往健康良好，他自十一月二十九日起出现发烧、出疹、头痛、肌肉痛和关节痛等病征，十一月三十日向北角一名私家医生求诊，十二月一日到律敦治医院急症室求医，无须入院。

他的血液样本经卫生防护中心公共卫生化验服务处检验后，证实对登革热病毒 NS1 抗原及登革热病毒血清型 1 型基因呈阳性反应。病人的情况一直稳定，今晚将入住律敦治医院。

初步调查显示，病人居于北角永兴街一私人大厦，潜伏期内没有外游。他与十一月二日公布的登革热个案病人（化验结果同属登革热病毒血清型 1 型阳性）同于沙田大水坑村附近一工地工作，并曾在工地被蚊叮。他的家居接触者至今没有出现病征，正接受医学监察。

张竹君医生说：「卫生防护中心随即展开流行病学调查，并立即通知食物环境卫生署（食环署）进行病媒调查及控蚊措施。卫生防护中心正继续调查个案，并会于病人到过的地方附近展开健康教育工作。」

卫生防护中心人员将视察病人住所及工作地点，进行问卷调查，以主动找出有否未获诊断的个案及安排血液化验。

曾到过北角永兴街和沙田大水坑村并出现登革热病征的人士应致电卫生防护中心登革热热线（2125 1133），安排化验调查或转介至医院作适当跟进。热线今晚运作至九时，明日（十二月四日）由上午九时至下午六时运作。

卫生防护中心与食环署今晚七时三十分于铜锣湾福荫道 7 号铜锣湾社区中心举行联合健康讲座，向居民和市民提供健康建议。

今年至今确诊共 110 宗登革热个案，即两宗本地（包括这宗个案）、106 宗外地传入、1 宗未能分类，以及 1 宗正在调查的个案。值得注意的是，与过去 10 年同期比较，二零零五至二零一四年同期录得 27 至 109 宗不等，今年至今录得的个案数字最高。此外，二零一四年有 3 宗本地及 109 宗外地传入个案。二零一三年有 103 宗个案，全属外地传入。

张竹君医生说：「我们会向医生和私家医院发信，呼吁他们留意这宗个案。我们将会联同医院管理局辖下公立医院、私家医院和私家医生，加强监测登革热怀疑个案。及早转介和及时控制对防止登革热在本港进一步传播非常重要。」

登革热病毒有 4 种不同的血清型。首次感染某种血清型，病情一般较轻，但若随后感染其他血清型，无论于多年后，则较易出现重症登革热，又称登革出血热。重症登革热的病情比较严重，可导致死亡。如没有适当治疗，重症登革热的死亡率可超过 20%。

由于至今没有预防登革热的疫苗获注册，故此，不论在本地或外游期间，时刻注意环境卫生，以及采取防蚊和个人保护措施是预防登革热的最有效方法。

卫生防护中心呼吁外游人士，应于出发前了解目的地的登革热风险，并采取以下预防措施：

- * 穿着宽松、浅色的长袖上衣及长裤，并于外露的皮肤及衣服涂上含避蚊胺成分的昆虫驱避剂；
- * 在户外，避免使用有香味的化妆品或护肤品，并按指示重复使用昆虫驱避剂；
- * 出发前最少 6 星期，应征询医生的意见，并采取额外的预防措施，免被蚊叮；及
- * 外游期间，如到流行地区的郊外旅行，应带备便携式蚊帐，并在蚊帐上使用杀虫剂氯菊酯。切勿将氯菊酯涂在皮肤上。

登革热的潜伏期为 3 至 14 日不等，通常为 4 至 7 日。任何人在外游返港后若感到不适，应尽快求医，并将行程细节告知医生。

市民亦应防止积水，并保持良好的环境卫生：

- * 每星期为花瓶换水一次；
- * 每星期清理花盆底下的积水；
- * 紧盖贮水器皿；
- * 确保冷气机底盘没有积水；
- * 把用完的罐及瓶放入有盖的垃圾桶；及
- * 妥善存放食物及处理垃圾。

市民如发现蚊患，应致电热线 1823 向政府部门报告，亦可参阅以下专题网页，了解详情：

- * 卫生防护中心登革热专页 (www.chp.gov.hk/tc/view_content/38847.html)；
- * 卫生署旅游健康服务登革热专页 (www.travelhealth.gov.hk/tc_chi/popup/popup_dengue.html)；
- * 卫生署最新旅游情报 (www.travelhealth.gov.hk/tc_chi/outbreaknews/outbreaknews.html)；
- * 卫生防护中心「使用昆虫驱避剂的注意事项」(www.chp.gov.hk/tc/view_content/38927.html)；
- * 卫生防护中心 Facebook 专页 (www.fb.com/CentreforHealthProtection)；
- * 卫生防护中心 YouTube 频道 (www.youtube.com/c/ChpGovHkChannel)；及
- * 食物环境卫生署防治蚊子滋生指南 (www.fehd.gov.hk/tc_chi/safefood/handbook_prev_mos_breeding.html)。

完

2015年12月3日（星期四）